

全医労保育所ニュース

子どもたちファーストの立場で 団結しながら保育所運動を発展させよう



たたかう決意を握りこぶしに込め参加者全員で記念写真

**保育所と雇用、子どもを守るために
全総力をあげてたたかおう**

全医労は6月3、4日に東京・浅草セントラルホテルで第46回保育所会議を開催しました。前日には、保育所問題プロジェクトチームが機構本部要請を行い、引き続き会議には、地方協書記長・地区代表・傍聴を含め全体で84人が参加し、重要な局面を迎えた院内保育所運動を全国一体となつてたたかう意思統一を行いました。

要請行動

6月2日、国立病院機構本部へ要請を行いました。

日本医労連中野中央執行委員長を先頭に保育所問題プロジェクトチームの他12人が「安全・安心で良質な院内保育所存続のための要請書」を提出し、「保育所職員の雇用継続をする事業者を選定するよう指導せよ」「機構本部として円滑な保育所運営の移行ができるようにせよ」「24時間保育などの一方的な導入は行わず、看護師の離職防止のためにも制度活用を進めよ」「老朽園舎を至急建て替へよ」等々訴えました。

要請団は、先行4園の状況確認も含め、新たな事業者と運営委託契約を結ぶ場合でも、厚労大臣答弁に基づき、機構本部として責任を持つて運営するよう求めました。

保育所会議 in 浅草

6月3、4日は浅草セントラルホテルで保育所会議を開催。桶谷書記次長による

司会進行で開会挨拶、佐藤委員長から「全国一体となつてたたかうスタートの場にしよう」と挨拶があり、中丸副委員長の基調報告が続きました。

中丸副委員長は、これまでの運動の経過と「病院直営」を基本としながら18年4月に向けた運動として、①すべての院内保育所の存続、②保育内容の継続と充実、安全・安心の保育の実現、③職員の雇用確保と労働条件の改善、④安定した保育所運営等、を要求し、本部・地方協・支部が総力をあげてたたかい、運動に確信をもつて共にたたかう仲間を増やそうと提起しました。

続いて、玉田さん(南和歌山支部)が機構本



「機構要請報告」
玉田さん(南和歌山)

院内保育所を解体させる一步にさせない 最終的な責任は機構理事長にある

部要請の報告を行い、

「『応募の機会を設ける』という表現は、大臣答弁と同様かと追及した。要望は上司に報告すると言っていたが、引き続き機構本部の責任を追及していかねばならない。厳しい時期だが、組合に結集してがんばりたい」と発言がありました。

ました。

逆井さんは、「とちのみ保育園で雇用を希望していた7人の職員を不採用としたキッズコーポレーションのような民間営利企業への運営委託は危険であり、厚労大臣答弁を踏まえ、職員の雇用確保を最優先とすることが重要であり、『情報収集と情報提供』『支部・保育所・保護者との連携』『支部・地方協・本部との

連携』を大切にしながら、何より『病院直営』を基本要求にして運動を進めることが求められる」と報告がありました。

2つ目は、肥前支部しらくり保育園保護者の宮下さんから「肥前しらくり会のとりくみ」が報告されました。「毎月開催の父母の会とは別に父母と保育所の役員会を開いており、この委託問題を発端に支部執行部・保育所・保護者が守る会を結成。ラインでリアルに情報交換を行い、とりくみを進める中、組合員拡大が広がっている」「院長宛ての署名を地域にも広げ目標を設定してとりくみ団体交渉で提出」「わかりやすいニュース作成を心がけ、とりくみを報告」

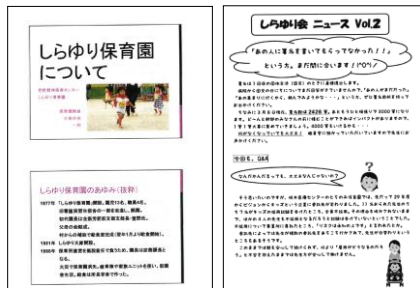
2つの特別報告

続いて2つの特別報告を受けました。

1つ目は「先行4園の取り組みと教訓」を逆井さん（関信地方協）が報告。17年4月から新たな委託先となった、栃木とちのみ保育園、千葉つばき保育園、下志津こじか保育園、相模原さがみたんぽ保育園の各施設の対応と委託後の状況、運動の到達と教訓が報告され



「特別報告」
逆井さん(関信地方協)、宮下さん(肥前支部)



肥前しらくり会のプレゼン資料とニュース

全体討論から

全体討論では7人から質問や意見が出されました。

「青森支部の団体交渉では保護者・保育所職員・支部が団結し、多くの声を伝えた。院長はどう思うかと追及有力な回答は引き出せなかったが、団交をやった良かった」「琉球支部では3月末に団交実施。仕様書に職員の継続は書けないとの回答だった。ニチイ学館、キッズが応募するとの情報がある。営利企業は入札させるなど本部で確約を取ってほしい」「再春荘支部では個人署名の他、保護者からひとこと署名も集めている。直営への運動が宙に舞ってしまい、どう運動を進めたら良いか不安だった。保護者からの保育所職員雇用継続の声をバックにがんばりたい」「岩国支部では団交前に3回の学習会を実施し、保育



「機構は子どもの未来に責任をもて」深津さん(相模原)

所職員の未加入者に団交実施の意義などを訴え6人が加入。保護者の加入も進み、機構本部交渉にも参加するなど運動の牽引役となっている」「仕様書の開示は違法になるので見せられないと言われた」「名古屋支部では、民主的な運営を行っている愛知保育共同連合会の経営部会で委託運営に手をあげて欲しいと訴えている。同時に父母会と共に署名のとりくみや、OB会を組織し、声をあげるなど多様な働きかけをしよう」とがんばっている

先行4園のうち、相模原支部の仲間からは「病院の勝手な判断により1年前倒しで新たな委託先に移行した。

院内保育所の「保育の質」は私たちが作って来た 確信をもつて施設や機構を追及していこう

ピジョンの支援金などの補償は受けられず、病院に訴えたがピジョンの職員であり関係ないと言われショックだった。誰も責任を取らない。有休も前倒しで4月から取得できるが、1年半で10日しかない。6月のボーナスもない。その責任は誰が取ってくれるのか。院内保育所は何のためにあるのか」と現状が報告されました。

本部も議論に参加

本部・香月書記長は「国立病院の院内保育所の組織・保育の質・職員を解体し、営利優先で変質化することは絶対許さない。交渉で回答させた通り、最終的な責任は機構理事長にある」「仕様書の内容そのものにおいて、私たちは関係者だ。どう

いう業者で、どういう基準で選ぶかという点で私たちを外すことはできない。団体交渉の中で仕様書の提示を追及しながら、かたくなに拒否をするようであれば、機構本部を追及し改善させる」「弘前ではあのキッズが入札。沖縄まで手を挙げようとしていることがわかった。とちのみ保育園の不採用と同様のことが起きれば大問題となる。厚労大臣答弁を踏まえ、引き続き機構の責任で職員の雇用・労働条件を担保するよう追及していく」「公募作業や業者については連絡を密にチェックし入口で悪徳業者を入札させないとりくみや対策を行いたい」等々、質問にも答えながら本部も議論に参加しました。

分散会で議論を深め

続いて3つの分散会にわかれ、現在抱えている不安や心配事、保育所の状況を出し合いました。

さらに新たな委託契約に向けた状況や運動の進捗状況等を確認し、支部・保育所・保護者の連携等、今後の運動について議論を深めました。



第二分散会の様子

交流会で団結

分散会終了後は、恒例となった地方協混合の席で料理を囲み、夕食交流会を行いました。

衛藤中央執行委員の進行で、各地方協の紹介・出し物が披露され、最後はテーブル対抗の大じゃんけん大会。厳しいたたかいの中でも、楽しい時間を過ごし、団結を固めることができました。



「今年も多彩な出し物を大いに楽しみました」
夕食交流会

講演「保育の質とは」

翌日は、「良質な保育のために大切なこと」をテーマに大宮勇雄先生（福島大学教授）から講演を受けました。

大宮先生は、保育の質の研究の到達点について事例を交えながら、「保育の質の三要素」として「プロセスの質」「保育条件の質」「労働環境の質」をあげ、保育の継続性は信頼によって結ばれる関係を作っていく土台であり、保育は人間を形成する豊かで大きな意味を持つと述べられました。

「質の良い保育は、子どもの人生を変える」と言っても過言ではないことがわかりました。「もっと長く講演を聞きたかった」「本質をついたお話だった」「奥深いお話に感動した」と感想も寄せられ、私たちが運動を進める上でこだわってきた「保育の質」について示唆に富む講演でした。

全体会で決意表明

その後の全体会では、昨日の分散会ごとの代表者として、第1分散会・前田さん（相模原）、第2分散会は、前園さん（南福岡）、第3分散会は、成田さん（北医セン）と、それぞれの立場で職場に帰ってから運動を進める決意や分散会で議論した内容が報告されました。



第1分散会
前田さん（相模原）



第2分散会
前園さん（南福岡）



第3分散会
成田さん（北医セン）



「保育は子ども達の幸せな日々を築く仕事」大宮先生

保育所・保護者・支部の共同の広がり この絆を揺るぎのないものに

本部まとめ

最後に香月書記長が
まとめを行いました。

※先行4園の経過・現状が報告され、短期間の移行の中で、保育を守り抜くとりくみが生々しく報告され経験が共有され、大切な教訓となった。

※肥前しらゆり保育園のとりくみは示唆に富

んだ実践。三者共同・

草の根からのとりくみが大切であり、全国で展開することが求められる。

※運動の当面の目標は仲間の雇用と生活を守ること。公募前までのとりくみ、公募後、決定後、職員雇用後の具体的労働条件とタイミングに応じて実践することが求められる。

運動のスタートラインに団交を位置付けて、全支部でとりくもう。

※運動を全国で展開する中で、業者委託の矛盾がでる。効率的な運営を求め、雇用と生活、保育を守る中で直営化の展望は切り拓かれる。

※子どもを産み育てる環境は、労使で解決すべき問題。保育所のあり方を対等の立場で決定する基本的スタンスで運動を進めよう。

※病院幹部と対立するだけでなく、同じ立場に立つてもらふこと。保育に関する専門的知識は私たちの方が豊かだ。肥前のような共感を呼ぶ運動を進めよう。

※組合費減額の要望が出されたが、組合費は会議や交渉など顔を合わせ、思いを確認しながら運動を進めるためには欠かせない。ご理解いただきたい。

※仲間が団結し、ひとつになって対応しなければ問題に立ち向かえない。団結の重要性を強調したい。組織拡大を進めよう。

以上を参加者の拍手で確認しました。

団結がんばろう

最後に、佐藤委員長の閉会挨拶、「団結がんばろう」で会議を終了し、参加者全員で集合写真撮影、再会を誓い合い散会となりました。

※6月2日の機構本部要請、分散会等の内容は、次号ニュースでお知らせします。

大宮勇雄先生の講演

「良質な保育のために大切なこと」

講演を録画しました。学習会等で活用できるよう準備を進めています。好評の著書「保育の質を高める」もおすすめて。本部に若干在庫あります。お問合せ下さい。

「院内保育所をみんなで支え考えていこう」～アンケートより～

寄せられたアンケート 48 人のうち一部をご紹介します。

会議について

- ※委託の決まった園の現状、経緯が聞けて良かった。
- ※公募前にこちらからアプローチしていく事も必要とわかった。待ってはいけなことを気づかされた。
- ※自分の支部でできることのヒントを得られた。
- ※病院への団体交渉の必要性をとて強く感じた。
- ※全国で同じ思いで働いている仲間がいる事の心強さを感じ、明日からまたがんばろうと力が湧いてきた。
- ※とても貴重な分散会だった。パワーをもらえた。

講演について

- ※自分の保育を振り返る事ができた。
- ※子どもの心に寄り添って保育をしていきたい。
- ※社会的に見た「質」の大切さを学べた。→

※保育士としての「質」も高めていきたい。

※日々の保育が子どもの未来につながっている事がわかった。

※何かを作ったり、身体を動かしたりする講演が良い。

職場に帰って

- ※保護者に呼びかけて意見書を書いて貰おうと思う。
- ※近日中に団交予定。とても参考になった。保護者と共にがんばりたい。
- ※会議の中で皆さんと一致したことは、やはり「病院直営」だと思う。会議の内容をフィードバックしたい。
- ※連携の大切さを伝えていきたい。
- ※他園の活動を参考に運動を考え行動していきます。
- ※支部としても情報を集め、保育所職員・保護者と団結してがんばりたい。